

原爆犠牲者慰霊祭を挙行



式辞を述べる河野医学部長



被爆後の惨状を語られる濱里欣一郎氏



献花台に花を供える参列者

原爆死没者教職員・学生 897 人の御霊を慰めるため、毎年実施されている原爆犠牲者慰霊祭が、本年も 8 月 9 日（木）、医学部記念講堂において、御遺族、医学部長、教職員ら約 360 人が出席して開催されました。

まず河野医学部長から、「原子爆弾による悲しい思い出を忘れることなく心に刻み、平和の大切さを後世に伝えていくことをお誓いするとともに、原子爆弾で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りします。」と式辞が述べられた後、午前 11 時 2 分、長崎市のサイレンと時を同じくして参列者全員で黙祷を捧げました。

次いで、当時、長崎医科大学附属医学専門部の学生で、原爆投下後に爆心地周辺で巡回診療にあたられた濱里欣一郎氏から、当時の惨状を追想するお話をいただいた後、齋藤学長ほか大学関係者、御遺族ら参列者全員による献花が行われました。

慰霊祭終了後、医学部福利厚生棟において、学徒遺族会、教職員遺族会及び看護師遺族会合同の追悼懇談会が行われました。

また、慰霊祭の様子は、慰霊祭会場と旧ソ連の核実験場があったカザフスタン共和国のカザフスタン医科大学及びセミパラチンスク診断センターの 2 地点とをインターネットで接続し、セミパラチンスク医科大学出身のセリック・マイルマノフ助教の同時通訳によってライブ中継されました。カザフスタン医科大学では教員・医師・学生ら約 20 人が、セミパラチンスク診断センターではセンター長をはじめとする教員・医師・学生ら約 30 人が出席しました。

（医歯薬学総合研究科学術協力課）